

ミュージアムパーク茨城県自然博物館  
令和3年度第1回博物館協議会の開催結果概要

1 博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は、博物館法第20条の規定に基づく法定組織であり、茨城県博物館協議会条例により設置されている。

委員は13名で、任期は2年となっている。うち1名は一般公募により選出されている。

会議は、委員長によって招集され、通常年2回開催している。

博物館法

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

2 日時

令和3年12月1日（水）14時00分～15時50分

3 場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 セミナーハウスA

4 出席者

田切美智雄委員（委員長）、樋口正信委員（副委員長）、田中ひとみ委員、生田目美紀委員、濱野一美委員、町田 満委員、山崎千恵子委員、鷺田美加委員

※事務局出席者

横山一己館長、熊田勝幸副館長、荒井寿紀管理課長、岸川将史企画課長、湯本勝洋教育課副課長、池澤広美資料課長、小幡和男首席学芸員、大崎昌幸主査、鵜沢美穂子主任学芸員、田宮奈津美主事、檜山 諒主事、青柳裕太主任（文化課）

5 議事概要

(1) 館長挨拶：

先日の企画展のオープニングセレモニーにも多くの委員の方が参加された。当館の行事へのご協力に御礼申し上げます。今年度の入館者数は、12月1日の現時点で20万人を超えた。昨年度は年間で25万人だったが、今年はおそらく30万人を超えるだろう

うと思っている。夏の8月から9月にかけて2か月間の臨時休館をしたが、入館者数はこのところ回復してきている。団体については、一日の予約人数を制限しているので、来館時期が分散しており、遠足の団体は12月でもまだ多い。これから新型コロナウイルスの感染状況がどうなるかまだ分からないが、早くマスクを取って子どもたちと一緒に対話をしながらイベントができると良いと思っている。今回は、今年度の上半期の報告と下半期の計画をお話する。皆さんのご意見を運営に反映して、より良い博物館にしていきたい。

## (2) 委員長挨拶：

企画展を毎回楽しみに、できる限り来館するようにしている。職員の皆さんがますます盛んに努力されていることを感じている。委員の皆さんからは、ぜひ忌憚のないご意見をお願いしたい。

## (3) 議案説明（事務局）

### 議題

- ① 令和3年度前期事業の報告について
- ② 令和3年度後期事業計画について
- ③ 予算・決算などについて
- ④ その他

## (4) 質疑・意見交換

○議題 ①～④について

### A 委員：

夏休みの一番子どもたちに来てもらいたい時期に休館になったことが残念だと思った。全面休館にせずとも、野外のみなら、密を避けて開館もできたのではないかと思った。

休館していても来館者の方とつながれるような工夫があると良い。毒展の動画配信は良かった。こういうものが増えていったら良い。

学芸員は人数に限られるので、学芸員から学んだボランティアが来館者に伝える機会が大切。人が伝えることに良さがあがり、学習効果が高まり、感動も倍増する。コロナ禍でボランティアの活動ができなくなってしまったのは残念だった。つくば植物園でも園内でのボランティア活動が停止したが、3Dプリンターで作ったトリカブトの根のレプリカを貸し出して、ボランティアが小さなグループで活用できるようにしていた。とても良いと思ったので紹介する。

事務局：

県の臨時休館措置は、人流自体を抑制するという意図もあったと理解している。また、一日良い天気なら良いが、雨が降ってきた時にどうするのかなど、色々な事情を考えて、野外の解放を控えた。

臨時休館中は Twitter や Facebook、YouTube で毒展の映像を公開することができた。

ボランティア活動については、高齢の方が多いため、慎重な対応をしてきた。現在は再開したイベントに少しずつ関わってもらっている。来館者対応以外では、資料整理など、ボランティアの方々それぞれのポリシーに基づいて、コロナ禍でも活動を一部行っていた。コケ展ではコケ庭の整備や草むしりを熱心にお手伝いいただいた。今後はボランティア主催のイベントも再開していきたい。

B 委員：

団体の子供たちのにぎやかな様子や入館者数を見て、すごい勢いで盛り返していて嬉しく思う。

非接触のスイッチを試したが、大変快適だった。動画配信も含め、コロナ禍でもできることに取り組まれていると思う。毒展が見られなくなってしまって寂しく思っていた。準備した学芸員にとっても 23 日という開催期間は残念だったことと思うが、特別展示で救われる思いだった。

質問が 3 つある。1 つ目は、野外施設について。27 年たって気候や環境の変動があると思うが、懸念事項はあるか。2 つ目は、展示事業の予算が減ったことについて。前の企画展に比べて予算が少ないと、企画展の担当は苦勞をするのかどうか。3 つ目は、友の会について。昨年度と比較して会員件数が -29 件ということだが、この時期においてたったこれだけの減で済んだのは、すごいのでは。博物館としてはどう感じているか。

事務局：

野外も展示物の一部であると考えている。野外施設の中に貴重な動植物が生息していたり、珍しい岩石を展示していたりする。これまで展示物として捉えられていなかった部分もあるので、30 周年に向けて、野外施設を来館者にどのように利用していただくか、もう一度見直す機会にしたいと考え、検討会議を行っている。

事務局：

展示予算は、昨年度に比べると減ったが、この数年間は入館料収入の増に伴い予算が大幅に増えており以前の水準に戻ったという状態。その時ごとに、予算のスケールに合わせて内容を工夫して製作している。一番収入が落ち込んだ 7~8 年前に戻ると困るが、この程度の減少で止まればある程度の質は維持できると考えている。

友の会の会員については、-29件というのはコロナ禍でも何とか踏みとどまってくれたという印象。しかし、友の会の会員数は長期的に見ると減り続けている。もう少し回復すると良いと考えている。

#### C 委員：

4点感想がある。千葉県は遠いのに、友の会会員になってくれている人が多い。何か特別なPRをしているのか。これを見ると、もっと開拓の余地があるように感じる。

入館者へのアンケート結果を見ると、「家族・親族」での来館が最も多く、88%。家族親族で来ると小さいお子さんも一緒だと思う。来てくださった方に「もっと詳しく知りたい」と思ってもらえると、そのあと、「来たい」という気持ちにつながっていくと思う。これが友の会の会員の開拓にもつながっていくと良い。

「毒をもつ生きものたち」の臨時休館は本当に残念だった。A・MUSEUMの表紙がアマガエルだったが、教員時代、小学校1年生がアマガエルで遊んでいて、目をこすってひどい炎症を起こしてしまったことがあった。保育園や子供会の指導者や親などに、毒をもつ生きものの展示はとても意義があると感じていた。何年か先に、ぜひとももう一度やっていただきたい。キャンプブームなどで、より需要が高まっていると思う。

野外施設の動植物には27年で変化があり、大事な展示物の一つだと私も思うので、検討会議に期待している。

自然発見ノートの見直しは良い機会だと思う。未就学の子ども向けの資料は作成されているか。

#### 事務局：

令和2年度年報52ページをご覧くださいと、アンケートによると来館者の22%は千葉県から。もともと、県境にあるという立地条件から、千葉県や埼玉県からの入館者が多いと思われる。家族親族にPRしてはというご意見があったが、友の会の家族会員は年間パスポートとの競合があり、会員増が難しい。友の会限定イベントなどの工夫をして、会員増につとめたい。

毒展は、SDGsや生物多様性など、教育活動の面でも効果的なテーマ、これからも追求していきたい。

#### 事務局：

未就学児向けには、先生が読み聞かせできる「はくぶつかんをたんけんしよう」という紙芝居を用意している。幼児には野外での活動が大切と考えており、「幼小ジュニアプログラム」として、葉っぱを使ったお面作りや、木の実を使ったプログラム、ダンゴムシのプログラムなどを用意して、幼稚園の先生方に貸し出しをしている。利用件数が少ないので、幼稚園や保育園でのPRにつとめているところである。

事務局：

企画展は3~4年先まで計画してしまっているのに、毒展の2回目は、やるとしてもだいぶ先になってしまう。なお、「毒をもつ生きものたち」の展示解説書は販売を続けているので、活用していただきたいと思っている。

事務局：

学校等に対する啓発として、講師派遣のご依頼は受けることができる。

D 委員：

駐車場に着いたら、バスがたくさん来ていた。ナンバーを見たら県南が多かったが、川口ナンバーもあった。小学校3年生が多かった。

ミニコミ紙「常陽リビング」に、博物館にフジバカマを植栽してアサギマダラが飛来したという記事が掲載されていて、とても良いと思った。

昨年度末の協議会の事業計画で紹介された第Ⅲ期総合調査の開始について、報告いただきたい。

野外施設の検討会議について。環境省のレッドリスト作成の委員をしているが、環境の変化は外からは分からない。博物館の中にどんな動植物がいるかの調査は行われているか。自然の変化を知る実験場として、記録が残せると良い。

企画展を、市民コレクション展も含めると100回くらい行っている。どんなテーマで行っているか調べたところ、動物・植物・地学で概ね同じくらいの回数を行っていた。3~4年前から準備すると話があったが、時間をかけて準備をすると、最新のものを紹介するのは難しい。代案として考えたのは、常設展示の「茨城の自然インフォメーション」でお金をかけずにできる展示で、最新の話題を取り上げると良いと考えた。

デジタルコンテンツについて、ホームページは地味だがすごい情報量だった。自然博物館ニュースは、100号になってリニューアルして非常にわかりやすく、見やすくなった。内容も充実している。残念なのは、中央に「一覧はこちら」というボタンがあるが、説明がなくわかりづらい。自然博物館ニュースにある内容を展示室に掲示したり、HPに掲載したりしたら良いのではないかな。もったいないと思った。そのほか、どんな資料があるのかなど、デジタルコンテンツの活用を積極的に行ってもらえたら。

事務局：

細かい数字をお話しすることができないが、第Ⅲ期は資料収集に重点を置いている。資料を収集して、データベースに掲載することを主眼にしている。特記すべき成果があった場合は、当館の研究報告に投稿している。今年度の研究報告にも総合調査の成果を掲載した。一般の方への還元というところでは、以前は企画展で総合調査の報告をしていたが、現在では

行っていない。常設展示の「茨城の自然インフォメーション」は一般の方へ総合調査を紹介する場になっている。機会があれば、総合調査の発表会を行いたいと考えている。また、総合調査の分科会から申し出があり、図鑑の出版も考えている。

事務局：

野外施設内の動植物の目録について、植物のリストは開館の時に一度まとめて、その後10周年の時に研究報告に変化を報告している。そのほか、菌類のリスト、博物館内の標本を含む茨城県内の変形菌リストなどが研究報告に発表されている。現在、地衣類やシダ植物の調査も進めている。各分野での目録作成は進んでいるが、全体が一覧になってはいない。30周年に目録をまとめてみても良いのではと思っている。今年、生物多様性センターを中心に、博物館も全面的に協力して県内の外来種のリストをまとめた。目録という土台を固めながら経年変化を追っていきたい。

事務局：

デジタルコンテンツについては、よりわかりやすいものに修正して行ければと考えている。

E 委員：

アンケート結果からみる来館者のグループについて、学校団体が少ないのはなぜか。来館を呼びかけた方が良いのではないか。

事務局：

学校団体はほとんどアンケートに回答していないが、実際には制限いっぱい来ていただいている。ソーシャルディスタンスの問題もあるので、回答の呼びかけをするのも難しいと思われる。様子を見ながら、閑散期に学校団体に来ていただくような呼びかけをしたい。

F 委員：

SNS を使う若い方が多い。博物館はハードルが高いと思うので、ハッシュタグを活用すると良いと思う。「#昆虫」「#恐竜」など。子供達でもわかる身近なハッシュタグから、博物館に興味をもつ人が増えるのではないか。

別の施設で、活動中に子どもたちがハチに刺されることがあった。野外の危険について、看板等で注意喚起されると良いと思う。野外の動植物についても、子供たちが自分で発見できるように、案内板の設置があると良いと思う。

事務局：

ハッシュタグの活用の件、大変参考になった。スズメバチについては、来館者の安心安全

のため、業者等に依頼して適宜駆除している。注意表示もしているため、今後も十分注意していきたい。

**G 委員：**

様々な制限がある中で、多くの方に楽しい学びの時間を提供していただいている。毒展の特別展示を嬉しく思った。化石展の時に、ティラノサウルスの産状レプリカを子供たちに触らせてあげられなかったのが残念だったので、ぜひ今後期待している。

オンラインの講座の環境整備を行われたとのことだったが、先日依頼を受けたオンライン講座では、5 団体に同時配信を行い、グループワークも行うことができた。今後ぜひオンラインも活用いただきたい。

**事務局：**

昨年度よりオンラインの講師派遣を何件か行っている。実物の体験ができないのが残念だが、少しずつ件数は増えてきている。オンラインのイベントはまだ発展途上だが、ほかの施設の状況も参考にしながら、これから充実させていきたい。